

I o T新時代の未来づくり検討委員会 人づくりWG (第1回)

○日時：平成29年11月28日(火)10:00～12:00

○プレゼンター

- ・近藤構成員
- ・株式会社沖ワークウェル 津田様
- ・日本電気株式会社 神尾様
- ・松尾構成員

○主な議論

- ・日本の障害者施策の中で、情報アクセシビリティ政策が特に弱く、これを進めていくためには根拠となる法律が必要。
- ・ICTの習得に際しては、自ら学べる環境が重要であるところ、様々なデバイスが海外から入ってくる時代の中で、その使い方が統一化されていないと利用者側がかなり混乱すると思われる。また、オープンな環境は重要ではあるが、セキュリティの確保を最重要な課題として取り組むことが必要。
- ・人や規制が技術の進歩に既についていけなくなる中、AIが普及する時代の人材育成の在り方を検討していく必要が在る。
- ・AIやIoTが地域のコミュニティを再生してくれる切り札になるのか、地域のコミュニティを不要にするのかが不安。
- ・AI、IoTが進化することによって、これまで行政が担っていた各世帯の負担の受け止め、処方箋の提示を代わりに企業が行うことが想定される。
- ・精神障害、知的障害がある方の雇用を広げていくこと、認知機能が低下した高齢者の意思決定をフォローすることを想定すると、対人関係や意思決定を支援するAI技術について検討していく必要がある。
- ・AIの普及によって失われる、変化する我々の能力、価値観、知性があるのか検討する必要がある。
- ・4K、8Kカメラとテレビを用いた遠隔医療により、表情を映し出すとともに、病状の分析ができるようになった。また、遠隔医療ではこれまで病院になかなか来られなかった行動が不自由な方、障害者も受診できるようになる。そういった意味でIoTを用いた遠隔医療に期待したい。
- ・高齢の女性はスマートフォンが苦手なのでショートメールでやり取りすることが多い。また、男性もパソコンには慣れていてもスマートフォンの使用は苦手。その意味で、このWGには期待したい。
- ・障害者に在宅就労の道があることがなかなか広まらない。その理由に、特別支援学校ではICTを使える先生が非常に少ないということもあるため、高専生や大学生が特別支援学校のICTサポートに回るような仕組みがあるとよい。